

6~7

カ 月



6～7ヵ月健診を終えられた皆さんへ



- 赤ちゃんの成長が、いちだんと感じられる時期に入りました。周りの人に笑いかけたり、いやなことをされると拒否したり、どんどん人間的な反応が増えていきます。「知らない人」を見分け、じいっと見つめたり、こどもによっては泣き出してしまったりします。いずれも順調な成長の証拠です。
また、寝返り、ハイハイ、つかまり立ち、と、動きがどんどん活発になる時期です。引き出しなどもあけられるようになり、お家の中を探検するのが大好きです。大事なものを壊されて怒っても、この時期のこどもには何のことかわかりません。
- 触られたくない・壊されたくないものは、高い所か鍵のかかる場所にしまって存分に探検できるようにしてあげた方が、お互いストレスもたまりません。

しょっちゅうカゼをひく時期です

- これから1年くらいは、ひっきりなしにカゼをひいていることが普通です。ちょうど、胎児のときに母体からもらっていた免疫が切れ、自分の免疫を作り出す時期にさしかかっているのです。
特に冬場にさしかかると「カゼをひいていないときがない」ということも珍しくありません。カゼをひいたり、治ったりをくりかえしながら、だんだん丈夫になっていくんだと考えてください。
食欲があって元気なら、おうちで様子を見ていてもいいのです。
あまり辛そうなら、病院で相談を。
- 生まれて初めて高い熱が出た、というときは「突発性発疹」かもしれません。4ヵ月から1歳半、特に6～12ヵ月ごろに多い病気です。熱が急に上がるので、びっくりして病院にかけ込んでこられる方が少なくないのですが、ほとんど誰もがかかるもので、怖い病気ではありません。
熱のわりに元気で、食欲もあり、咳や鼻水はあまりなく、ちょっと便がゆるくなることもある、というのが特徴。38℃以上、人によっては40℃くらいの熱が続きますが、特別な治療は必要ありません。3～4日で自然に下がり熱が下がるのと入れかわりに全身（特に胴体の部分が中心）に赤い発疹が出ておしまいです。

食欲があって元気なら・・・だいじょうぶ

いちばん心配なこと・・・



●これからの3ヵ月間、ハイハイ、つかまり立ち、つたい歩きと動き回るようになり、手でものをつかんで食べることができるようになります。

- ・玄関や階段、ベビーカーから転落する
- ・たばこ、薬、化粧品、防虫剤、ボタン、硬貨、洗剤、灯油などを誤って飲み込む
- ・つかまり立ちしてテーブルの上のものをひっくりかえし火傷する
- ・アイロン、ストーブ、ポット、炊飯器の蒸気吹き出し口などにさわって火傷する

●こんな事故が急に増えます。

この時期の家庭内の事故は親の責任です。事故がおきて後悔する前に、事故を防ぐ工夫を。

事故

- ・危険なもの、口にいれたら困るものは1メートル以上の高いところにしまいましょう。
- ・容器には蓋をし、飲食物の容器には食品以外のものを入れないようにしましょう。
- ・階段の入り口には柵を設けるといいですね。
- ・車にはチャイルドシートをつけましょう。
- ・お風呂で溺れる事故は意外に多いもの。浅くても危険です。浴槽のお湯は必ず抜いておきましょう。

「夜泣き」について



こどもの成長のステップ

- 昼間はご機嫌がいいのに、どういうわけか夜になると泣き続ける、おむつを変えても泣きやまないしおっぱいも見向きもしない、という状態になることがあります。いわゆる「夜泣き」ですね。
「夜泣き」の原因はよくわかっていません。

心のはたらきが急速に発達する時期ですから、それに伴って、何か不安なものを感じているのかもしれません。
どうしてあげたら、という決定的な方法がないのがつらいところです。

育児の先輩たちに聞くと

「ずっと抱っこしていた」「夜中散歩に行った」
「自転車や自動車に乗せてそのへんを走り回った」
などなど、様々な経験談がでてきます。

- どうにもならなければ、あきらめて放っておくのも一つの手です。
長くても1ヵ月くらいたてば、たいていはおさまってくるもの。
こどもの成長のステップと考えてください。

あきらめてのんびり構えるのも
ひとつの手です

Check List チェックリスト



1. こどもだけ置いて家を留守にすることがありますか？

いいえ ときどき はい

2. 階段に転落防止の柵を用意しましたか？

(階段はない) はい いいえ

3. こども用の椅子は安定のよいものを使用していますか？

(使用していない) はい いいえ

4. 赤ちゃんのまわりにボタン、硬貨、指輪などの小物を置いていますか？

いいえ ときどき はい

5. 赤ちゃんの手の届くところにビニール袋や風船などがありますか？

いいえ ときどき はい

6. 熱湯などを取り扱う時、赤ちゃんに注意していますか？

はい ときどき いいえ

7. 赤ちゃんをストーブやヒーターの側に寝かせていますか？

いいえ ときどき はい

8. 赤ちゃんの手の届くところに尖ったものがありますか？

いいえ ときどき はい

9. 浴室で溺れることへの対策を考えていますか？

はい いいえ

解説



あっという間に行動範囲が広がる時期。

飲み込み事故ややけど、転落、そしてお風呂など家の中での溺水、という事故がこれから1歳まで多くなります。

1. こどもだけ置いて家を留守にすることがありますか？

寝返り・ハイハイ・つたい歩きとどんどん行動範囲が広がるので、危険な目にあう確率も高まります。しかも、赤ちゃんは自分では安全・危険の判断はできません。ひとりで家の中に置いておくのは極めて危険。

よく眠っているようでも目が覚めて、動きまわっているうちに事故にあうことがよくあります。

2. 階段に転落防止の柵を用意しましたか？

好奇心旺盛であちこち探検する時期。階段などにもひとりで行くことができます。階段からの転落は死亡事故や重症事故につながるものが少なくありません。階段の上と下に柵をするのが一番。玄関も、段差があれば転落防止策を講じる必要があります。

3. こども用の椅子は安定のよいものを使用していますか？

赤ちゃんは頭が重いため、高いところから転落しやすいのです。足を動かしたり、身を乗り出したり、動きが活発ですから、椅子は脚が頑丈で底の広い、倒れにくいつくりのものをえらび、できれば脚にすべりどめをつけましょう。ひとりで椅子に座らせたまま側を離れるのも危険です。

4. 赤ちゃんのまわりにボタン、硬貨、指輪などの小物を置いていますか？

目に付いたものは何でも口にいれるため、飲み込み事故が急激に増えます。赤ちゃんがさわれるところに小さいもの（直径3．5 cm以下）を置かないように徹底しましょう。

5. 赤ちゃんの手の届くところにビニール袋や風船などがありますか？

鼻と口をふさいで窒息の危険があります。

6. 熱湯などを取り扱う時、赤ちゃんに注意していますか？

熱湯を扱っているとき、赤ちゃんがまとわりついてきてバランスを崩し、熱湯をかけてしまうことがあります。

熱いものを扱うとき・熱いものを持って移動するときは、こどもがどこにいるか確認しましょう。

7. 赤ちゃんをストーブやヒーターの側に寝かせていますか？

ストーブなど、触ればすぐに火傷するようなものはもちろん、ホットカーペットなどの低温のものでも、長時間接触していれば低温やけどをひきおこします。

暖房器具と赤ちゃんの距離は離し、直接触れないように工夫しましょう。

8. 赤ちゃんの手の届くところに尖ったものがありますか？

お座りしていてもバランスを崩しやすい時期。頭から倒れ込むと家具の角、はさみやアイロンなど、いろいろなものが「凶器」になります。

赤ちゃんを座らせるときはまわりを確認しましょう。家具の角にはクッションになるものを。

9. 浴室で溺れることへの対策を考えていますか？

浴槽で溺れる事故はたいへん多く、死亡・重度の後遺症の率も高いのです。たいていは、残り湯の入った浴槽をのぞき込んでいて頭から落ち込み、そのまま溺れてしまうというケース。こどもが小さいうちは、浴槽に湯を残しておかないようにするか、浴室にしっかり鍵をかけるようにしましょう。